

後期学校評価より

東山開晴館
京都市立開晴小学校
京都市立開晴中学校

1月下旬に行いました後期学校評価アンケートには、保護者の方から697枚のご回答を頂戴いたしました。ご協力ありがとうございます。同様の内容で児童生徒及び教職員にも調査をしておりますので、その結果と合わせて分析して参ります。

【2ページ】

調査したアンケート項目の一覧です。今までと同様に、校訓「克己・進取・礼節」に合わせて各5項目、計15項目で調査を致しました。保護者の皆様には、「学校との連携」「家庭教育」に関わる5項目の調査も引き続き行わせていただきました。

アンケートの集計だけでは比較ができませんので、従来と同様に、「実現度」を算出し、意識の違いを明らかにしています。

〔実現度の算出方法〕

○それぞれの回答を以下のように数値化する

「できている」……7 「大体できている」……5

「あまりできていない」……3 「できていない」……1

○それぞれの項目の総計を回答者数で割り、平均を出す。

●「わからない」は、回答者数から除外し、別途分析する。

評価が5を超えている項目については、多くの方が「大体できている」と判断されていることになります。

【3～4ページ】

児童生徒のステージによる実現度比較です。児童生徒の実現度とした場合、1～9年生を一律にとらえるには、傾向が分かりづらいの、ステージで分析をしています。Iステージ（1～4年生）とII・IIIステージ（5～9年生）にわけてまとめています。

はじめに、概要を表していますので、ご確認ください。

【5ページ】

次に、児童生徒、保護者、教職員の「実現度の三者比較」をしています。

従来のように、児童生徒は「よくできている」と見ているのに対して、保護者や教職員は厳しい評価を下しています。三者とも、前回より実現度が少しづつですが高まっている傾向が見受けられます。前期同様、保護者が最も厳しい評価となっています。

			保 護 者	児 童 生 徒	教 職 員
克己	1	安全指導	子どもが安全に注意して登下校する	ルールを守り安全に注意して登下校している	校外で安全に行動できるように指導している
	2	学習への粘り	子どもがあきらめずに学習しようとする	わかるまで勉強しようとしている	分かるまで分かりやすく教えようとしている
	3	勤労意欲	子どもが掃除をがんばろうとする	すみずみまで、きれいにそうじをしている	勤労意欲を持たせるよう努力している
	4	思いやりの心	子どもが相手を思いやり仲良くする	人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない	人権を基盤とした人間関係を築こうとする心情を育てている
	5	食事への感謝	子どもが好き嫌いせず感謝して食事をする	残さず給食を食べている	感謝して給食を食べようとする態度を育てている
進取	6	計画的な行動	子どもが宿題忘れや忘れ物をしないようにする	次の日の学習の用意をしている	自分で見通しを持ち、行動できるように指導している
	7	主体的な学習	子どもが自ら家庭で学習しようとする	めあてをもって授業を受けている	学習課題が子どもたちに明確になる指導計画を組んでいる
	8	学習の交流	子どもが積極的に発表等の学習活動に参加する	授業中、自分から進んで発言している	グループ学習など学び合いの場を保障できている
	9	読書の習慣	子どもが興味のある本を読もうとする	自分からすすんで本を読んでいる	進んで読書するような働きかけをしている
	10	挑戦する心	子どもが少し難しいことに挑戦しようとする	苦手なことでも、挑戦しようとしている	何事にも挑戦しようとする態度が養えている
礼節	11	挨拶の習慣	子どもがしっかりとしたあいさつをする	自分からすすんであいさつをしている	気持ちよく挨拶をしようとする態度が養えている
	12	ルールの遵守	子どもが学校のきまりやルールを守ろうとする	学校のきまりを守っている	決まりやルールを守ろうとする態度が養えている
	13	整理整頓	子どもが脱いだ履物をそろえようとする	上ぐつやスリッパをそろえて脱いでいる	次に使う人のことを考えようとする態度が養えている
	14	言葉遣い	子どもが場に応じた言葉づかいをしようとする	言葉づかいに気をつけている	場や相手に応じた言葉遣いをするように指導している
	15	学習規律	子どもがよい態度で学習しようとする	授業中、先生や友だちの話をよく聞いている	子どもたちに学習規律を身につけさせている
家庭教育等	16	学校との信頼関係	学校に気軽に相談できる		
	17	学校との連携	学校便りやホームページで学校の方針や様子が分かる		
	18	家庭での挨拶指導	家庭でのあいさつの習慣をつける		
	19	家庭での役割	家庭での役割を決め、責任をはたさせる		
	20	基本的生活習慣	早寝早起きなどの基本的生活習慣を身につけさせる		

H27 後期ステージ別実現度比較

1月下旬に行いました後期学校評価アンケートには、保護者の方から697枚のご回答を頂戴いたしました。新しい年になり、9年生は入試に向けて、8年生はチャレンジ体験、4・5・7年生は生き方探究館での学習を終えた時期での子どもたちの姿を評価いただくという機会としました。お忙しい中であったと思いますが、多数ご協力いただきました。誠にありがとうございました。児童生徒及び教職員にも調査をしておりますので、今回もその結果と合わせて分析したことを報告いたします。

平成24年度前期より現在のアンケート項目で調査をしてまいりました。校訓「克己・進取・礼節」に合わせて各5項目、計15項目で調査をしています。保護者の皆様には、「学校との連携」「家庭教育」に関する5項目も合わせて調査させていただいている。

まず、児童生徒の実現度についてお確かめください。実現度は、**評価が5を超えていたら、「大体できている」と判断されることになります**。1昨年度より、子どもたちの評価と実際の様子に開きがあるように感じられましたので、1~4年と5~9年に分けて集計をし、実現度比較をしています。

児童生徒全体の実現度は、ほぼ5.0ポイントを超えています。また、年々実現度は高まっています。H26年度よりも実現度が高まっていたH27前期評価よりさらに、5項目で実現度は高まっています。ステージごとに結果を比較すると、依然としてIステージとII・IIIステージとの差は歴然としていますが、H26年度よりH27前期、H27前期よりH27後期と評価のたびに、実現度の開きが縮小しています。

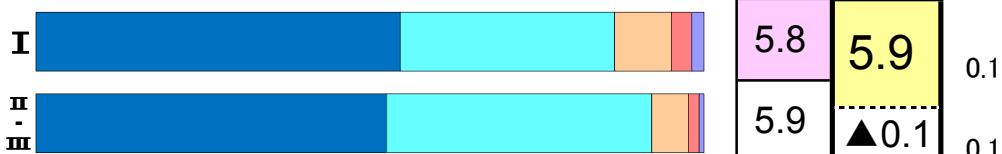
次に、児童生徒・保護者の皆様・教職員の3者の実現度をまとめています。児童生徒は「よくできている」と見ているのに対して、依然、教職員や保護者は厳しい評価を下しています。教職員より保護者の皆様の方が厳しい評価となっていますが、3者とも、実現度は高まってきてる傾向にあります。また、教職員と児童生徒との実現度はますます近づいています。教職員と児童生徒の評価に視点やねらいや目標の共通理解につながってきていると考えられます。

[凡例]

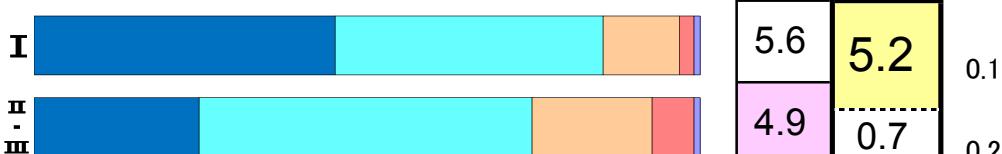


Ist 実現度	児童生徒 全体の 実現度	H27前期比較
II・III 実現度		
Ist - II・III		H27前期比較

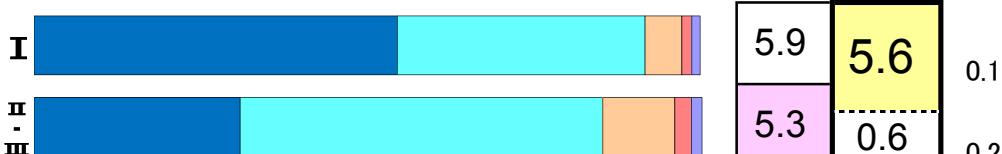
1 ルールを守り安全に注意して登校している



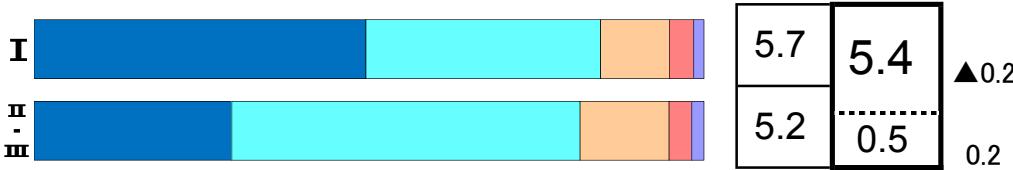
2 わかるまで勉強しようとしている



3 すみずみまで、きれいにそうじをしている



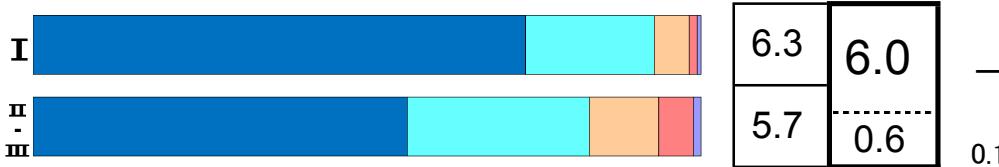
4 人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない



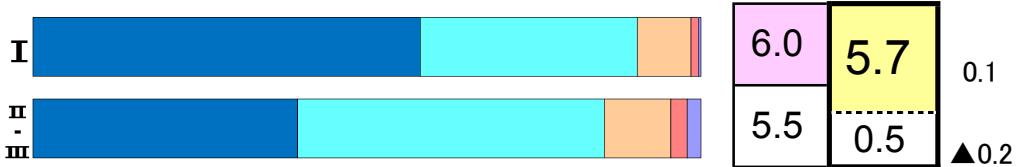
5 残さず給食を食べている



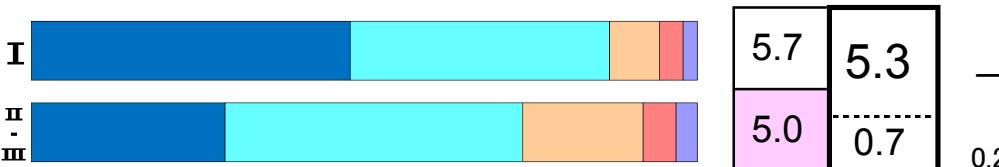
6 次の日の学習の用意をしている



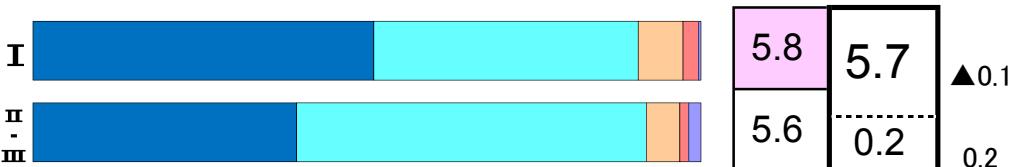
11 自分からすすんでいさつをしている



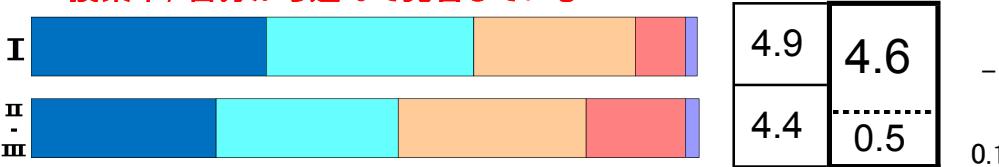
7 めあてをもって授業を受けている



12 学校のきまりを守っている



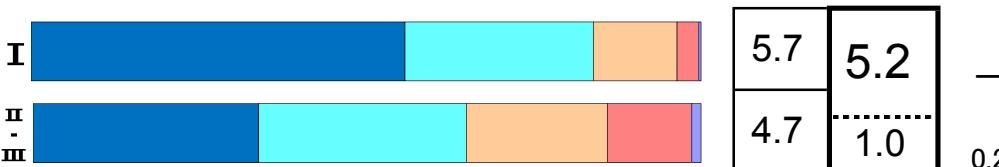
8 授業中、自分から進んで発言している



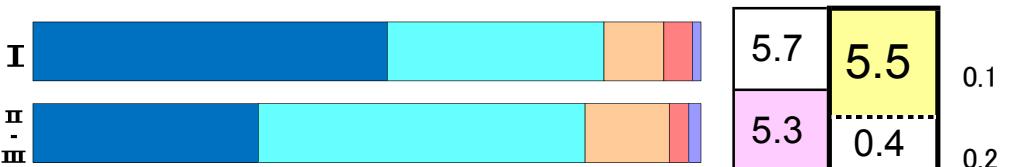
13 上ぐつやスリッパをそろえて脱いでいる



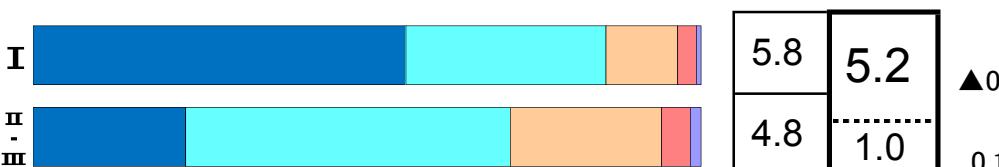
9 自分からすすんで本を読んでいる



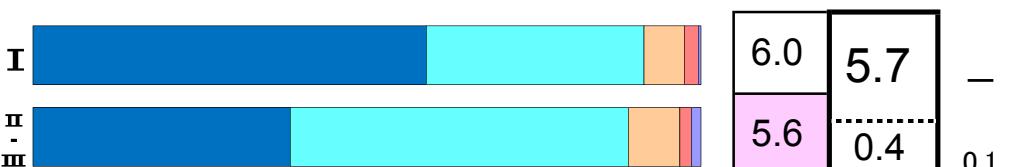
14 言葉づかいに気をつけている



10 苦手なことでも、挑戦しようとしている

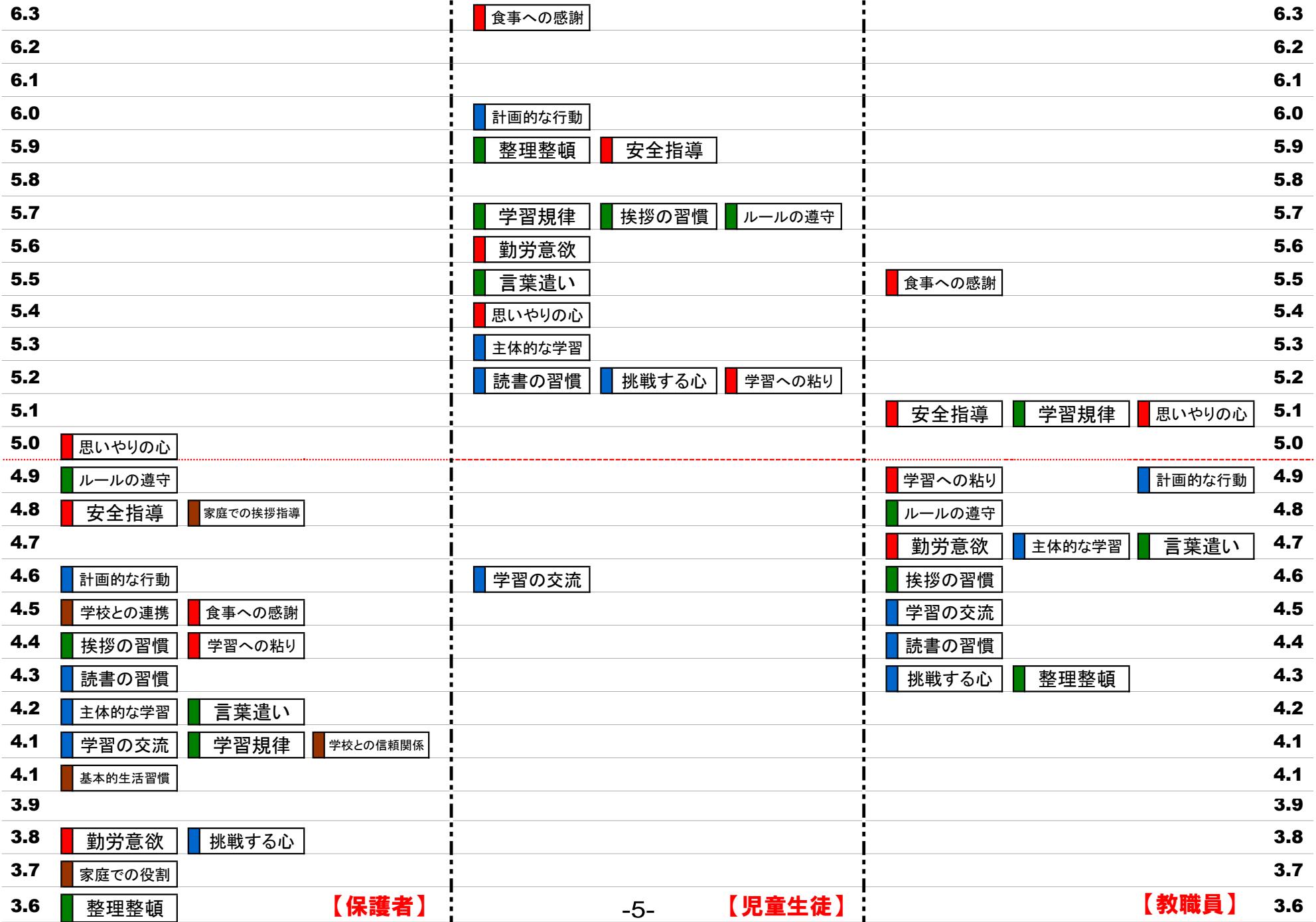


15 授業中、先生や友だちの話をよく聞いている



三者の実現度比較

□…克己 □…進取 □…礼節 □…家庭教育等



【7ページ】

保護者の皆様と教職員には「実現度」に加えて、それぞれの項目の「重要度」も調査しております。「重要度」についても、同様に以下の方法で数値化をしております。

〔重要度の算出方法〕

○それぞれの回答を以下のように数値化する

「重要である」	…… 7	「やや重要である」	…… 5
「あまり重要でない」	…… 3	「重要でない」	…… 1

○それぞれの項目の総計を回答者数で割り、平均を出す。

●「無答」は、回答者数から除外し、別途分析する。

また、「重要度」「実現度」から「ニーズ度」(要求度)を以下の方法で算出することができます。「分布図」各項目の右下の白抜き数字がニーズ度です。

〔ニーズ度の算出方法〕

$$\text{ニーズ度} = \text{重要度} \times (8 - \text{実現度})$$

○とても重要（7点）だが、できていない（1点）の場合

$$7 \times (8 - 1) = 49 \quad [\text{ニーズ度の最大値}]$$

○重要でない（1点）で、できている（7点）の場合

$$1 \times (8 - 7) = 1 \quad [\text{ニーズ度の最小値}]$$

○やや重要である（5点）が、あまりできていない（3点）の場合

$$5 \times (8 - 3) = 25 \quad [\text{ニーズがあると判断する境界値}]$$

ニーズ度が25を超える項目、またそれに近い項目についてはニーズがあると判断し、重点課題として考察する必要があります。

ニーズ度の経年変化を示しています。例年、ニーズがある項目には大きな変化はなく、本校の置かれている状況を表現していることとなります。前期に比べると、ニーズ度が下がってきている傾向が見受けられる。重要度はあまり変わらない中で、ニーズ度が下がることは、実現度が高まっていている傾向だとわかります。3者ともわずかではありますが、ニーズ度が下がってきてることにも実現度の高まりが感じられます。しかし、まだまだニーズ度は高いことから、継続して取り組むことや粘り強く対応して改善していく必要があります。また、家庭との連携をより深め、学校、家庭と同じ視点でますます児童生徒の成長にかかわっていくことが大切だと思われます。

【8ページ】

調査結果をもとに、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」に分け、学校評価及び種々のアンケートをもとに分析および改善策をまとめています。

保護者ニーズ度 経年変化

			H24前期	H24後期	H25前期	H25後期	H26前期	H26後期	H27前期	H27後期
1	安全指導	子どもが安全に注意して登下校する	21.1	23.9	21.1	21.4	20.8	22.1	22.1	22.1
2	学習への粘り	子どもがあきらめずに学習しようとする	23.9	24.2	23.4	22.2	23.4	24.8	24.8	24.1
3	勤労意欲	子どもが掃除をがんばろうとする	24.5	24.3	24.5	23.3	24.3	25.8	27.1	26.0
4	思いやりの心	子どもが相手を思いやり仲良くする	18.3	23.7	19.2	18.0	17.7	19.7	20.4	20.1
5	食事への感謝	子どもが好き嫌いせず感謝して食事をする	21.7	24.5	21.1	20.3	21.8	22.4	23.4	22.1
6	計画的な行動	子どもが宿題忘れや忘れ物をしないようにする	20.8	23.5	19.5	19.7	19.6	22.1	23.1	21.8
7	主体的な学習	子どもが自ら家庭で学習しようとする	25.5	23.0	24.2	23.9	24.0	26.7	26.0	24.3
8	学習の交流	子どもが積極的に発表等の学習活動に参加する	21.0	22.8	20.8	20.2	20.7	23.2	22.9	23.8
9	読書の習慣	子どもが興味のある本を読もうとする	22.1	21.7	21.7	21.0	21.1	23.9	23.7	23.3
10	挑戦する心	子どもが少し難しいことに挑戦しようとする	24.8	21.8	24.5	24.9	24.8	26.5	26.2	26.5
11	挨拶の習慣	子どもがしっかりとしたあいさつをする	21.2	21.2	21.1	20.6	20.8	23.5	23.1	23.8
12	ルールの遵守	子どもが学校のきまりやルールを守ろうとする	17.8	20.0	17.4	17.5	13.5	21.1	19.8	19.8
13	整理整頓	子どもが脱いた履物をそろえようとする	25.3	20.6	25.5	24.9	25.5	26.4	27.1	26.8
14	言葉遣い	子どもが場に応じた言葉づかいをしようとする	22.7	20.3	21.9	21.3	20.9	23.6	24.1	24.3
15	学習規律	子どもがよい態度で学習しようとする	22.5	20.8	22.0	21.4	21.5	24.8	24.7	24.6
16	学校との信頼関係	学校に気軽に相談できる	24.0	21.2	23.0	22.2	22.9	25.6	26.0	24.6
17	学校との連携	学校便りやホームページで学校の方針や様子が分かる	17.0	17.3	17.3	16.9	16.6	20.1	19.8	20.3
18	家庭での挨拶指導	家庭であいさつの習慣をつける	19.2	19.0	19.4	19.3	19.1	24.3	21.4	21.4
19	家庭での役割	家庭での役割を決め、責任をはたせる	25.5	17.8	24.5	23.9	24.2	27.9	26.5	26.7
20	基本的生活習慣	早寝早起きなどの基本的生活習慣を身につけさせる	24.5	18.1	23.8	23.7	23.3	25.1	24.4	25.4

平成27年度 学校評価後期実施報告書

1 平成27年度 重点評価項目

「思考→判断→行動」のプロセスを意識しながら次の徹底を図る

- 学力の向上（授業改善と家庭学習課題の設定）の徹底） ○挨拶等マナーの向上（社会の規範に照らす指導と評価の徹底）
- 自治活動の充実（学級会・児童会・生徒会等自治活動）の徹底） ○小中一貫教育の推進（子どもも実態から出発した取組の徹底）

2 自己評価

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
確かな学力	言語活動の充実	教職員・保護者・児童生徒アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、教職員、児童生徒の3者とも全体的にわざかではあるが実現度が高まっている。 ・教職員と児童生徒の評価にかかる達成度がますます近づいてきています。学習や生活、それとの取り組みの目的やねらいを明確にするとともに、しっかりと共有して取り組めていていると考えられます。また、子どもに見通しを持たせるような授業展開の工夫、単元を通した学習活動の工夫など思考→判断→行動のプロセスを意識していることが主体的な学習につながってきていると感じます。しかし、学習における話し合い活動の場面がまだ充実してきているとは言い難い、言語活動を核にえた取り組みを行っているが、児童生徒にとって、他の項目に比べると実現度が低くなっています。児童生徒の話し合い活動の充実や発言する機会を積極的に取り入れることと、充実させていくための工夫が必要と感じています。 ・教職員評価も全体的に高まっている傾向があるが、教職員の評価より保護者評価が低くなる傾向は変わらないが、各項目ごとの実現度の傾向はにかよったものとなっていく。 ・読書の習慣については、児童生徒は比較的の実現度が高いのに対して、保護者・教師ともに決して高いとは言えない。また、保護者の読書の習慣に対するニーズ度は経年変化では上昇傾向にあるものの、高くはない。また、Ⅰステージに比べⅡ・Ⅲステージにおいて、その実現度は低く 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習をする際にも、学校での授業と同じように一人一人のめあてを明確にする必要がある。「やらされている」という感覚から「自ら工夫して取り組む」という意識に変えていくような家庭学習課題の出し方を模索したい。 ・読書については、児童生徒会と連携をしながら、読書まつりや読フェスなどの開催を通して、読書離れしない環境づくりに取り組んでいく。 ・学習の中に本を活用する場面を多くするように心がけている。「楽しむために読む」だけでなく、「知識を得るために読む」ことも大切である。本から得られる情報が様々な場面で活用できることを知る学習を今後も取り入れていきたい。 ・保護者と教職員と児童生徒のめざす姿や達成したときの姿をしっかりと共有する必要がある。保護者と学校との連携にもつながるが、それぞれの学年でどのような姿が見られたら、目標達成と判断するのかという評価規準を具体的に明らかにしておく必要がある。
	読書活動の推進	メディアセンター利用者・貸出図書数		
	家庭学習の充実	教職員・保護者・児童生徒アンケート		
豊かな心	挨拶の励行や望ましい言葉遣いの徹底	教職員・保護者・児童生徒アンケート 児童生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と保護者の達成感は似かよっているが、児童生徒自身の評価が依然として高い。教職員や保護者が考えている達成目標と子どもが達成していると判断する基準に違いがあると考えられる。できていると感じる。ただし、ルールの遵守については達成度の違いはあるが、3者とも実現度は5を超えていく。 ・あいさつや言葉遣いなども保護者や教職員の実現度は下がり、児童生徒の実現度は高まっている。これもどの程度が達成しているかの基準が共通理解できていないことにあると考えられる。児童生徒会活動との連動、地域の方や家庭での取組で変容してきていると感じたが、まだ定着しきれていないのが現状と思われる。 ・感謝するという姿勢がやはりうまいと考えられる。やってもらつて当たり前、声をかけてもらうことや支えてもらうことを待っているところも感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や言葉遣いなど、どの程度であればできていると判断するのか、どのような姿が達成できていると認められるのかを、共通理解する必要がある。具体的な姿を提示して児童生徒に意識させることや求める姿を明確にする必要がある。また、児童生徒会が自発的に活動する必要がある、現状をしっかりと把握し、判断し、行動できる姿を養う必要がある。 ・多くの人に支えられて生きていることや一人では生きられないこと、何かを挑戦するにもたくさんの支えがあって挑戦できることなど、学年の実態に合わせて伝えていく必要がある。また、道徳教育や人権教育の取り組みをますます充実させて、自分自身を、自分の環境を、仲間を見つめる機会を充実させていく。
	協働活動や話し合い活動の充実	生徒質問紙、教職員聞き取り		
	人権尊重の精神の育成	人権教育年間計画や教職員研修		
健やかな身体	基本的生活習慣の確立	朝ご飯アンケート 教職員・保護者・児童生徒アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い時期になることで、遅刻の児童生徒や朝食をしっかりと食べずに登校する児童生徒が増える傾向にある。また、体調を崩す児童生徒も多く、一度体調を崩すとなかなか万全にならないことが多い。 ・ペロリ賞などの給食の取り組みが充実してきていることもあり、完食率が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導や学級活動、保健学習などの学習経験と児童生徒会活動との連動を重視して、ますます意識を高めていくことが必要である。 ・給食指導や栄養指導などの取り組みの充実から完食率が高まっていることと家庭での食習慣との関連をより充実していく必要がある。学校保健委員会などの参加者を増やし、学校医とも連携を深め、保護者へ訴えていく必要があります高める必要があると考える。PTAの保育委員会とも連携して取り組みを発展させていく必要と考える。 ・業間マラソンやマラソン大会が定着し、一生懸命取り組む児童生徒が多い。取り組みを継続してますます意欲的に取り組めているようにしていく。また、日頃から体を動かせるような場の工夫をすることも考えて行く必要がある。 ・運動できる環境が整っていないことも運動能力との関連があると考えることから、第2教育施設の活用方法をより工夫して、子どもの運動経験を増やせるような取り組みを心
	体力の向上	体力テストの結果	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業明けの生活の乱れはなかなか改善がされない。家庭との連携や児童生徒の自覚を高めることや基本的生活習慣の大切さを訴えていく必要がある。 ・開校以来の7～9年のマラソン大会に続いて、1～6年生のマラソン大会や業間マラソンなどの取組も定着し、子どもの意識も高まっている。 ・第2教育施設の竣工に伴い、ファーストステージの児童の放課後の活動場所が確保できるようになったが、遊んでいる人数は少ない。 	
学校独自の取組	開かれた学校づくり	保護者アンケート HPの更新状況とアクセス数	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事におけるHPでの配信時には、たいへん多くのアクセス数があることから、一定学校の取り組みに対する関心も高く、様子を知っていただける機会になっている。 ・HPの更新数も増加していることから、HPを閲覧するという習慣が定着していると考えられる。しかし、なかなか学校との信頼関係や学校との連携という点では、実現度が高まらない傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者との信頼関係や連携を高められるように、保護者と直接話す機会を増やすようにする。また、学年だよりや学習予定表などを通じて、活動の様子や子どもの感想などを知らせる機会を積極的に取り入れ、学校の様子を身近に感じられるような工夫をする。 ・東山フォーラムなどの取り組みを継続発展できるように、東山区の保育所や幼稚園、小中高等学校や行政が連携を図り、地域の実態に合った催しができるようにする。 ・本校独自の小中一貫に関する取り組みが充実してきている。今後は、今まで計画してきた取り組みを見直し、児童生徒の実態に合ったものとなるよう、行事の精選を心がけながら、9年の見通しもった取り組みの充実を図る。
	小中一貫教育の推進	本校独自の行事や取組の計画及び実行		
	保幼小中連携の推進	保幼小中連携の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ・留守番電話の導入により、遅い時間からの電話対応が削減し、教職員のライフワークバランスの整う一助となっている。 ・就学前の保護者に対する取り組みが定着し始めている。さらに、保育所や幼稚園との連携を深め、取り組み方法を工夫し、充実を図る必要がある。 	